

## 事業概況



あすかアニマルヘルス

得意領域において  
ナンバーワンを目指して

あすかアニマルヘルス株式会社  
代表取締役社長  
山口 文豊



あすかアニマルヘルスは「動物の健康と食の安全を守る  
ことにより、人と動物が共生できる社会づくりに貢献しま  
す。」を経営理念とし、動物用医薬品事業と飼料添加物事  
業の2本柱で事業を展開しています。昨今の物価高やエ  
ネルギー価格の上昇、為替相場の円安進行などが経済全  
体に大きな影響を与えています。また、国内の家畜衛生の  
状況を見ると、高病原性鳥インフルエンザについては過去  
最悪であった2022・2023年シーズンに比べると発生件  
数は減少しましたが、豚熱に関しては、2023年8月末に  
九州で初めて佐賀県で発生し、ワクチン接種推奨地域は  
北海道を除く全国におよんでいます（2024年6月時点）。  
さらにアフリカ豚熱は、アジアでは日本を除くほぼ全域に  
拡大し、韓国では釜山港の国際旅客ターミナル周辺で野

生イノシシでの発生が続くなど、国内外で感染症のまん延  
が続いており、引き続き徹底した防疫対策が求められてい  
ます。コンパニオンアニマルに関しては、コロナ禍で増加  
した頭数は若干減少に転じてきているものの、ペットの高  
齢化と、医療の高度化・多様化が進むなか、医薬品の需  
要は増加傾向にあります。国内の動物用医薬品企業に  
目を向けますと、昨年末には他社で医薬品医療機器等法  
に基づく行政処分が行われました。動物の生命・健康に  
貢献する企業としてあらためて法令遵守を徹底して、畜水  
産領域およびコンパニオンアニマル領域において引き続  
き事業を展開します。特に、得意領域においてナンバー  
ワンになるべく、2024年度も活動を展開していきます。

## 強み

主要な繁殖用ホルモン剤の  
ラインナップによる  
畜産分野における高い市場プレゼンス

コンパニオンアニマル分野における  
潜在的なニーズを意識した製品の提供

飼料用必須アミノ酸の  
フルラインナップによる  
配合飼料の低たんぱく化への貢献

## 事業環境分析

## 事業環境認識

- 為替相場、世界的な人件費・燃料費などの高騰による生産資材、畜水産物などのコスト上昇
- 人口減少と高齢化、生体価格の上昇によるペット新規飼育頭数の減少
- 環境問題への対応とサプライチェーンの不安定化および製品のコモディティ化

## リスク

- 畜産農家、水産養殖業者の減少と製品需要への影響
- 持続的なペット飼育頭数の減少
- 競争激化と安定供給への対応

## 機会

- 繁殖効率の改善による生産効率の向上
- ペットの長寿化による疾病の増加とペット関連支出増によるオーナーの価格受容性の高まり
- 世界的な低たんぱく飼料に対する需要拡大

## 戦略

- ▶ 主力ホルモン剤の提供による生産効率向上を通じた企業価値およびエンゲージメント向上の推進
- ▶ 強みのある分野に特化した製品の開発・提供と収益基盤の強化
- ▶ 環境負荷物質排出低減への貢献（低たんぱく飼料普及による環境への窒素負荷軽減）

## TOPICS

## 畜水産領域およびコンパニオンアニマル領域の取り組み

畜水産領域の取り組みとして、2024年4月に名古屋  
で開催された国際養鶏養豚総合展 2024 (IPPS2024)  
においてブース出展し、国内の生産農家や飼料メー  
カー担当者はもちろん、海外のメーカー担当者へ当  
社製品の情報提供活動を実施しました。また、開催  
期間中には企業セミナーを実施し、鶏のむね肉に多く  
含まれ、ヒトの健康につながる多くの機能性を持つと  
して注目を集めている「イミダゾールジペプチド」の前  
駆体であるL-ヒスチジン（当社申請により2023年  
農林水産省により新規飼料添加物指定済み）につい  
て情報提供を行い、盛況のうちに終了しました。また、  
コンパニオンアニマル分野での各学会にも精力的に  
出展し、トリロスタン錠「あすか」のさらなる市場浸透  
を目指し情報提供活動を強化しました。今後もこれま

で当社が培ってきた「強み」を最大限に活かし、当社  
製品価値の最大化を目指すとともに、人の営みには欠  
かせない動物たちの健康を支える有用な製品ライン  
ナップの拡充を推進していきます。



IPPS2024出展の様子